

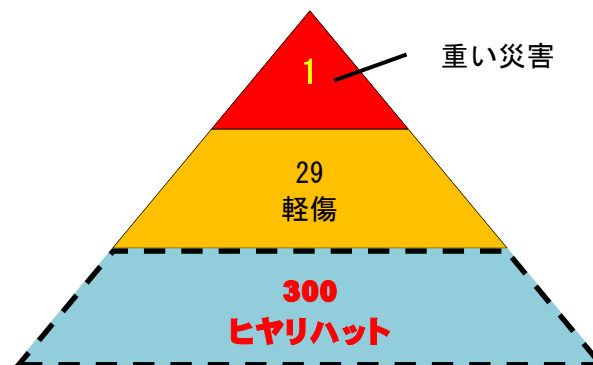
ヒヤリハット事例・想定ヒヤリ 報告制度の導入について(例)

(株)〇〇食品 安全環境課

1. はじめに

仕事をしていて、もう少しで怪我をするところだったということがあります。このヒヤっとした、あるいはハッとしたことをヒヤリハットといいます。ハインリッヒの法則では「330件のうち1件は重い災害があったとすると、29回の軽傷（応急手当だけですむかすり傷）、傷害のない事故（物損やヒヤリハットなど）を300回起こしている。」とされています。

ハインリッヒの法則 概念図
(1 : 29 : 300 の法則)



このヒヤリハットを集めて事前に安全対策をしておけば、労働災害を未然に防ぐことができます。

ただ、ヒヤリハットは報告する側にとってあまり名誉なことではありません。しかし、そもそも作業手順書に無理があり、他にも同じようなヒヤリハットが発生しているかもしれません。ヒヤリハットを繰り返さないようにするためにも、職場に広めて問題を共有化していくことも必要です。

さらに、一歩進んで、ヒヤリハット以前にみなさんが作業していて危険を感じる事（想定ヒヤリ）にも対応していきたいと考えます。

安全な職場づくりのため、ヒヤリハット・想定ヒヤリを積極的に報告して下さい。

2. 報告の方法について

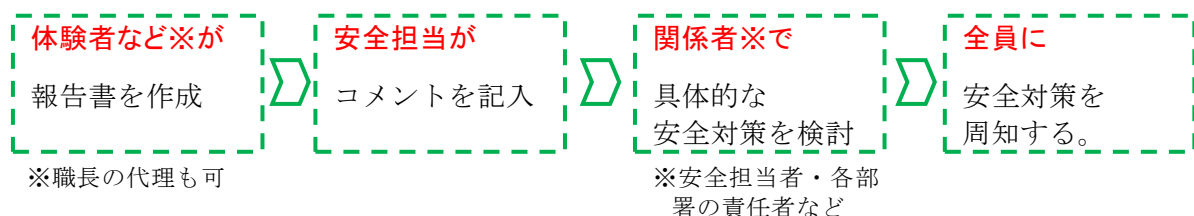
(1) ヒヤリハット体験者・想定ヒヤリ提案者が、記載例を参考に報告書を作成して安全担当に提出する。

なお、報告書の作成・提出は、職長が代理してもかまわない。

(2) 報告書の内容は、記入できる範囲でもよいので自由に作成して下さい。

(3) 報告の内容によっては、安全担当がその時の状況を確認することがあります。

3. 実施方法について（フロー）



安全担当の皆様へ

ヒヤリハット報告制度は、労働災害防止の有効な手段として製造業を中心に取組まれています。本資料は、このヒヤリハット報告制度を取組まれていない事業場のために、導入の足がかりをつくる目的のことを作成しました。

本文でも触れましたが、1件の労働災害の陰には300件のヒヤリハットが発生しているとされています。しかし、ヒヤリハットは職場の中に埋もれ、労働災害が発生してから気づくことがあります。このヒヤリハットを掘り起こしてうまく活用できれば、事前に安全対策が行うことができます。

ヒヤリハットの情報を多く入手するためには、システムづくりが重要であり、本資料ではその一例を紹介しています。

また、本資料では報告の対象に「想定ヒヤリ」を追加しています。想定ヒヤリは、実体験が元となるヒヤリハットとは異なり、危険を感じたときなどヒヤリハットなどが起こる前のタイミングを対象としています。ねらいは、報告に柔軟性をもたせて掘り起こしやすくする、また、労働者の危険への感受性を高めるなどがあります。

ヒヤリハット報告制度の有効性をご理解いただき、以下の解説などを参考にルールなども整備した上で導入に向けて検討を進めていただきますようお願いいたします。

ヒヤリハット

仕事をしていて、もう少しで怪我をするところだったということがあります。このヒヤリとした、あるいはハットとしたことを取り上げ、災害防止に結びつけることが目的で始まったのが、ヒヤリハット活動です。仕事にかかわる危険有害要因を把握する方法の1つとして、効果的です。

ヒヤリハットは報告する側にとっても、報告を受ける側にとっても、あまり名誉なことではありません。このため、労働者を責めないという取決めをし、これを実行しないと、制度が長続きしません。たとえ作業手順書どおりに作業を行わなかったことが原因であった場合も、手順書に無理があつて守ることができないのかもしれないかもしれません。手順書の見直しの良い機会と考えるべきです。

朝礼などの機会をとらえ、ヒヤリハットがきちんと報告されるよう意識付けをしておくことも重要です。また、改善された事例については、社内報などを通じて社内にも広く情報提供すると、水平展開はもとより、労働者の意識向上にもつながります。

ハインリッヒの法則（1:29:300の法則）

アメリカの損害保険会社の安全技師であったハインリッヒが発表した法則です。「同じ人間が起こした330件の災害のうち、1件は重い災害(死亡や手足の切断等の大事故のみではない。)があつたとすると、29回の軽傷(応急手当だけですむかすり傷)、傷害のない事故(傷害や物損の可能性のあるもの)を300回起こしている。」というもので、300回の無傷害事故の背後には数千の不安全行動や不安全状態があることも指摘しています。また、ハインリッヒは、この比率について、鉄骨の組立と事務員では自ずから異なっているとも言っていますが、比率の数字そのものではなく、事故と災害の関係を示す法則としては、現在も十分に活用できる考え方です。(中略)(略部は、以下のサイトでご覧下さい。)

これらの研究成果で重要なことは、比率の数字ではなく、災害という事象の背景には、危険有害要因が数多くあるということであり、ヒヤリハット等の情報をできるだけ把握し、迅速、的確にその対応策を講ずることが必要であるということです。(参考文献「新しい時代の安全管理のすべて」中災防発行)

出典：職場のあんぜんサイト 安全衛生キーワード

http://anzeninfo.mhlw.go.jp/yougo/yougo_index01.html

報告の種別：ヒヤリハット・想定ヒヤリ
↑ いづれかに○をして下さい。

ヒヤリハット・想定ヒヤリ 報告書

所属氏名			
いつ	平成	年	月 日 (曜日) 時 分 頃
どこで		どうしていた時	
ヒヤリハットした、 危険を感じた 時のあらまし			

どのような問題（不安全な状態又は行動）がありましたか。

[問題があった項目欄にその時の状態と考えられる対策を記入してください。]

①作業環境の問題
②設備機器の問題
③作業方法の問題
あなた自身の問題

心身分析

(該当する全ての項目に○をつける)

1. よく見え（聞こえ）なかった
2. 気がつかなかった
3. 忘れていた
4. 知らなかった
5. 深く考えなかった
6. 大丈夫だと思った
7. あわてていた
8. 不快なことがあった
9. 疲れていた
10. 無意識に手が動いた
11. やりにくかった
12. 体のバランスをくずした



<u>今後の対策（こうしてほしい・こうしたほうがよい）</u>

<u>※安全管理者の記入欄：報告者は記入しないこと。</u>

記入例

報告の種別：ヒヤリハット・想定ヒヤリ
↑いつれかに○をして下さい。

ヒヤリハット・想定ヒヤリ 報告書

所属氏名	〇〇係 〇〇 〇〇		
いつ	平成24年〇〇月〇〇日（〇曜日）13時30分頃		
どこで	梱包ライン	どうしていた時	梱包作業中
ヒヤリハットした、危険を感じた時のあらまし	〇〇の梱包機で連続して流れていた〇〇がズれてきたので、直そうと手を出したとき、カッターに指をはさまれそうになった。		

どのような問題（不安全な状態又は行動）がありましたか。

[問題があった項目欄にその時の状態と考えられる対策を記入してください。]

①作業環境の問題
②設備機器の問題 機械の停止ボタンが作業位置から離れている。
③作業方法の問題 機械を停止していなかった。
あなた自身の問題 機械を停止してからズレを直していなかった。

心身分析

(該当する全ての項目に○をつける)

- よく見え（聞こえ）なかった
- 気がつかなかった
- 忘れていた
- 知らなかった
- 深く考えなかった
- 大丈夫だと思った
- あわてていた
- 不愉快なことがあった
- 疲れていた
- 無意識に手が動いた
- やりにくかった
- 体のバランスをくずした

今後の対策（こうしてほしい・こうしたほうがよい）

最近、機械の不具合のためか、ズれることが多いので調整して欲しい。
停止ボタンを作業場所から近い所に設置して欲しい。

※安全管理者の記入欄：報告者は記入しないこと。

- メーカーを呼び、機械の不具合を確認する。
- 非常停止ボタンの位置を変更する。
- 現場からの意見を聞き、安全装置の設置を安全衛生委員会で検討する。
 - ①透明なカバーの設置とカバーを開くと自動的に停まるようにする。（インターロックの設置）
 - ②危険個所にエリアセンサーを設置する。（機械の稼働中に手を入れたら、自動的に停止する）

記入例

報告の種別：**ヒヤリハット** 想定ヒヤリ
↑ いづれかに○をして下さい。

ヒヤリハット・想定ヒヤリ 報告書

所属氏名	〇〇係 〇〇 〇〇		
いつ	平成 24 年 〇〇 月 〇〇 日 (〇 曜日) 13 時 30 分頃		
どこで	商品の仕分け作業庫	どうしていた時	商品の運搬中
ヒヤリハットした、危険を感じた時のあらまし	商品を運搬していたところ、床が濡れていたため滑って転びそうになった。		

どのような問題（不安全な状態又は行動）がありましたか。

[問題があった項目欄にその時の状態と考えられる対策を記入してください。]

①作業環境の問題 床掃除の水がきちんと拭かれていなかったため、滑りやすかった。
②設備機器の問題
③作業方法の問題 荷物をいっぱい持っていたため、足元が見えづらかった。

あなた自身の問題 急いで作業をしていたため、荷物を持ちすぎた。

- 心身分析
(該当する全ての項目に○をつける)
- よく見え(聞こえ)なかった
 - 気がつかなかった
 - 忘れていた
 - 知らなかった
 - 深く考えなかった
 - 大丈夫だと思った
 - あわてていた
 - 不愉快なことがあった
 - 疲れていた
 - 無意識に手が動いた
 - やりにくかった
 - 体のバランスをくずした

今後の対策（こうしてほしい・こうしたほうがよい） 床掃除を行った後は、中途半端にはせず、きちんとモップで拭いてほしい。
--

※安全管理者の記入欄：報告者は記入しないこと。

(ア) 散水をした場合は、その者がモップで水を確実に拭き取るよう徹底させる。
職長は担当エリアにて、作業者が上記の行動が確実に実行されているか確認する。

(イ) 水がたまりやすい箇所がないか確認するとともに、問題箇所を修繕する。

(ウ) 足元の視界をふさぐ程の荷物は台車を使って作業する。
また、各職場で台車が不足していないか確認し、必要に応じて購入する。

記入例

報告の種別：ヒヤリハット・**想定ヒヤリ**
↑いづれかに○をして下さい。

ヒヤリハット・想定ヒヤリ 報告書

所属氏名	〇〇係 〇〇 〇〇		
いつ	平成24年〇〇月〇〇日（〇曜日）16時30分頃		
どこで	工場内	どうしていた時	ミートチョッパーの掃除
ヒヤリハットした、危険を感じた時のあらまし	羽根を動かしながらミートチョッパーの掃除をしているとき、手を挟まれる。		

どのような問題（不安全な状態又は行動）がありましたか。

[問題があった項目欄にその時の状態と考えられる対策を記入してください。]

①作業環境の問題	ここは、わからなければ、空欄のままでも構いません。 ただし、不明な点があれば、後でお聞きします。
②設備機器の問題	
③作業方法の問題	
あなた自身の問題	

心身分析

(該当する全ての項目に○をつける)

- よく見え(聞こえ)なかった
- 気がつかなかった
- 忘れていた
- 知らなかった
- 深く考えなかった
- 大丈夫だと思った
- あわてていた
- 不愉快なことがあった
- 疲れていた
- 無意識に手が動いた
- やりにくかった
- 体のバランスをくずした

今後の対策（こうしてほしい・こうしたほうがよい）

マニュアルでは、機械を止めてから掃除するよう定められているが、少し動かしたいときもスイッチのところまで行かなくてはならず面倒です。（守って作業している人が少ない。）操作しやすいように改造するか、少なくとも次回購入の際には改善して欲しい。

※安全管理者の記入欄：報告者は記入しないこと。

業者に改造できるか確認します。

- ①清掃用のボタンを備えたスイッチボックスを増設し、ケーブルでつなぎ作業位置からでも簡単に操作できるようにする。
- ②スイッチについては、ボタンを押しているときだけ羽根が動き、ボタンから手を離したら羽根が止まる構造とする。（ホールド・ツウ・ラン機能）

記入例

報告の種別：ヒヤリハット・**想定ヒヤリ**
 ↑いづれかに○をして下さい。

ヒヤリハット・想定ヒヤリ 報告書

所属氏名	〇〇係 〇〇 〇〇		
いつ	平成 24 年 〇〇 月 〇〇 日 (〇 曜日) 9 時 〇〇 分頃		
どこで	屋外の玄関付近	どうしていた時	通行していた
ヒヤリハットした、危険を感じた時のあらまし	玄関で来客が除雪用ショベルにひかれそうになる。		

どのような問題（不安全な状態又は行動）がありましたか。

[問題があった項目欄にその時の状態と考えられる対策を記入してください。]

①作業環境の問題	<p>ここは、わからなければ、空欄のまま提出してもかまいません。</p> <p>ただし、不明な点があれば、後でお聞きします。</p>
②設備機器の問題	
③作業方法の問題	
あなた自身の問題	

心身分析

(該当する全ての項目に○をつける)

- よく見え(聞こえ)なかった
- 気がつかなかった
- 忘れていた
- 知らなかった
- 深く考えなかった
- 大丈夫だと思った
- あわてていた
- 不愉快なことがあった
- 疲れていた
- 無意識に手が動いた
- やりにくかった
- 体のバランスをくずした

今後の対策（こうしてほしい・こうしたほうがよい）

除雪用ショベルの走行範囲にカラーコーンを立てて、立入禁止を表示する。

※安全管理者の記入欄：報告者は記入しないこと。

- カラーコーンとロープの購入を検討する。
また、立入禁止箇所などを事前に担当者を確認する。
- 通学時間帯など人の移動がある時は、除雪用ショベルで除雪を行わない。
どうしても行わなければならない時は、誘導員をつけて行う。